

稅ヲ割キテ之ニ充テシメ、往還ノ人ノ渡錢ヲ要セザルコト、爲シハ、大化ノ制ヲ摸セシモノカ、次デ仁明天皇ノ朝、東海東山兩道ノ諸川、崖岸廣遠ニシテ、浮橋ヲ架スルコト能ハザルモノハ、渡船ヲ増置シ、又布施屋ヲ河畔ニ作リテ休憩停留ニ供セシム爾來文德天皇以後數朝ノ間、常ニ観慮ヲ此ニ用キテ、或ハ度子ヲ配置シ、或ハ渡船ヲ増設セシメ給ヒシコト、累見錯出シテ載スルニ勝ヘザルナリ。

將門威ヲ肆ニシ權ヲ弄スルニ至リテハ、諸國ノ守護地頭等、私ニ津料、河手ト稱シテ船賃ヲ強取シ、旅人ノ障害ヲ爲スモノ多シ、順德天皇建保三年以降、幕府屢々令ヲ發シテ之ヲ嚴禁シ、其用途ハ別ニ料田ヲ置キテ之ニ充テシム、然レドモ隨テ令スレバ隨テ弛ミ、足利幕府ノ世ヲ終フルマデ、遂ニ其功ヲ奏スルコト能ハズ、織田豊臣二氏相繼ギテ興ルニ及ビテハ、諸國津濟ノ制較見ルベキモノ無キニアラズ、之ヲ前ニシテハ大内家壁書ニ載スル所ノ鯖川渡、赤間關渡等ノ船場定ノ如キ、之ヲ後ニシテハ朝野舊聞哀稿、及ヒ舟橋方古書寫ニ記スル所ノ遠江天龍川、越中神通川等ノ渡場定ノ如キ、亦以テ其一端ヲ窺フニ足ルベシ、徳川氏府ヲ江戸ニ開キ、天下ノ諸侯ヲシテ參勤交代セシムル頃ニ至リテハ、諸道ノ交通最モ頻繁ニシテ、復タ舊貫ニ因ルベキニ非ズ、是ニ於テカ特ニ意ヲ道路舟梁ニ用キ、凡ソ管内ノ渡場ニハ、高札ヲ建テ、其制ヲ揭示シ、諸國ヲシテ之ニ遵行セシメ、且ツ要路津濟ニハ、各關ヲ設ケ吏ヲ置キテ行旅ヲ檢察セシム、而シテ其渡錢ハ一定ノ額アリテ、渡子ノ增收ヲ禁ジ、優スルニ扶持米ヲ以テシタリ、若シ渡子ニシテ誤リテ渡船ヲ沈没セシメ、溺死セシムルトキハ、多クハ之ヲ遠島ニ處シ、時ニ或ハ死罪ニ行ハシムルコトアリキ。

名稱

(倭名類聚抄十道路) 濟  
(倭名類聚抄三道路) 濟  
爾雅注云、濟、子禮反、和太利、渡處也。

(箋注倭名類聚抄十道路) 濟此言和多利、仲哀紀有向津野大濟、籠野大濟、神功紀有瀬田濟、仁德紀有